

動物資源生産学特論（一）（2単位）

担当者氏名 相馬 幸作、平山 博樹

◆学習・教育目標（到達目標を記載）

生物生産は総合科学と位置付けられ、農学や畜産学で扱われる既存の家畜の生産技術に加え、新しい動物資源の開発や多様な環境に配慮した動物資源生産力の拡大、さらに動物資源機能の新しい応用などに関わる教育が必要である。本特論では、動物資源生産を深く理解することを目的に、ウシやブタなどの主要家畜、その他の特用家畜ならびにエミュー等の新規動物の最新の増殖技術および生産管理技術を学ぶ。本講義はオムニバス方式で行い、1～7は平山が、8～15は相馬がそれぞれ担当する。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

動物資源学 動物生産 生物生産 家畜増殖
飼料資源

◆授業の進行等について

	テ ー マ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	性比の制御	• 胚移植による雌雄産み分け	・講義毎に、講義内容の資料を配付するが、事前に参考書等に目を通し、背景となるデータの確認をしておくこと。また、配付資料はファイリングし、講義の復習を行うこと。
2	性比の制御	• 性分離精液の利用	
3	生殖細胞の保存	• 卵母細胞保存技術	
4	生殖細胞の保存	• 胚の低温および凍結保存技術	
5	卵巣機能制御	• 卵巣機能の内分泌学的評価	
6	人工授精技術	• 定時人工授精	
7	胚移植技術	• 最新の胚移植技術	
8	飼料生産の現状と課題	• 飼料生産の現状	
9	飼料自給率の向上	• 飼料自給向上のための研究成果	
10	代替飼料の活用	• 穀類価格の高騰への対応	
11	家畜飼育の実際1	• 牛の飼養管理技術	
12	家畜飼育の実際2	• 豚の飼養管理技術	
13	家畜飼育の実際3	• 特用家畜の飼養管理技術	
14	新規動物生産	• エミューの飼養管理技術	
15	家畜生産の応用例	• エゾシカの個体数調整と一時養鹿事業	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

講義ごとに関連資料を配布する

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

家畜人工授精講習会テキスト／日本家畜人工授精師協会（2010）、繁殖生物学／日本繁殖生物学会編／インターズー（2013）
新版特用畜産ハンドブック／新版特用畜産ハンドブック編集委員会／畜産技術協会（2007）

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

レポートにより評価を行う。

◆オフィスアワー

講義後または毎週火曜日の午後に、研究室で質問等を受け付ける。

◆その他受講上の注意事項

ディスカッションをする場合があるため、事前の資料収集を怠らないこと。